

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

(省令で定める基準単位数を満たす単位分科目のみ抜粋)

学校名：学校法人三幸学園 大阪医療秘書福祉 & IT 専門学校

学科名：介護福祉科

授業科目名	単位数
介護の基本 I	4
介護総合演習 I	2
合計	6

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	人間の尊厳と自立		
必修選択	必修	(学則表記)	人間の尊厳と自立		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	最新介護福祉士養成講座1 人間の理解 最新介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報2

授業のねらい	人間の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎を身につける。				
到達目標	介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、自立支援など、介護実践の基盤となる教養豊かな人間性を身につけることができる。				
評価基準	筆記試験（小テスト含む）90% 授業態度10%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	社会の理解 介護の基本Ⅰ 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 介護過程Ⅰ・Ⅱ 障害の理解				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岩雲 佳代			実務経験	○
実務内容	社会福祉士として、専門職後見人に携わっている				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要と進め方、成績評価の方法など
2	人間の尊厳と利用者主体①	人間を理解すること 人間の尊厳という概念
3	人間の尊厳と利用者主体②	人間の尊厳と利用者主体
4	人権・福祉理念の変遷①	諸外国の人権・福祉理念の変遷
5	人権・福祉理念の変遷②	諸外国の人権・福祉理念の変遷
6	人権・福祉理念の変遷③	日本の人権・福祉理念の変遷

7	人権・福祉の理念①	ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン
8	人権・福祉の理念②	ADLからQOL、生命倫理
9	人権尊重と権利擁護①	利用者の人権と生活、利用者の権利侵害が起こる状況
10	人権尊重と権利擁護②	権利侵害の背景と権利擁護の視点
11	自立の概念①	いろいろな視点から見た自立
12	自立の概念②	自立と自律、自己選択・自己決定、
13	介護を必要とする人々の自立と自立支援①	ライフサイクルに応じた自立支援の考え方
14	介護を必要とする人々の自立と自立支援②	介護を必要とする人の尊厳の保持と自立支援
15	まとめ	振り返り

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	人間関係とコミュニケーションⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	人間関係とコミュニケーションⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	最新介護福祉士養成講座1 人間の理解			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報2

授業のねらい	介護実践のために必要な人間の理解や他者への情報伝達のための、基礎的コミュニケーション能力を養う。 具体的な利用者・家族、並びに介護チームの多職種間のコミュニケーション技法について学び、習得する。				
到達目標	①人間関係について考察し、社会で求められる人間関係構築能力が理解できる ②円滑なコミュニケーションを図るための基礎的なコミュニケーション技術を理解できる。 ③介護におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解し、自分の言葉で説明できる。 ④様々なコミュニケーション技法について理解し、実際に体験することができる。				
評価基準	筆記試験60% 提出物30% 授業態度10%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	コミュニケーション技術Ⅰ 人間関係とコミュニケーションⅠ・Ⅱ 認知症の理解				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	森田 友江			実務経験	○
実務内容	介護福祉士として介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、リハビリデイサービスにて12年勤務した実務経験を 活かして、福祉施設や幼稚園、自治体などでボランティア活動も行っている				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要と進め方、成績評価の方法など
2	人間関係の形成①	人間と人間関係、自分と他者の理解(自己形成、自分を理解する)
3	人間関係の形成②	他者の理解(他者としての認識、自分との共通性と違いを認識)
4	人間関係の形成③	人間関係形成のために必要なこと(自己覚知、自己開示、ラポールの形成)
5	発達心理学から見た人間関係①	人間の段階的な発達、パーソナリティーの発達と人間関係、社会性の発達と人間関係

6	社会心理学からみた人間関係②	他者とのかかわり、集団とのかかわり
7	集団の中の人間関係	グループ・ダイナミクス
8	人間関係とストレス	ストレス反応とストレス対処行動
9	対人関係とコミュニケーション①	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション
10	対人関係とコミュニケーション②	対人援助における基本的態度、援助を形成するための7原則
11	組織におけるコミュニケーション③	組織の中におけるコミュニケーションの特徴
12	組織におけるコミュニケーション③	組織に求められるコミュニケーション
13	介護実践におけるチームマネジメント①	チームマネジメントとは ケアを展開するためのチーム（同職種、多職種、法人・事業所）
14	介護実践におけるチームマネジメント②	介護サービスの特徴と介護現場で求められるチームマネジメント 組織の目標達成のためのチームマネジメント
15	まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	未来デザインプログラム		
必修選択	必修	(学則表記)	未来デザインプログラム		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	2	30
使用教材	7つの習慣Jテキスト 夢のスケッチブック (WEBアプリ)			出版社	FCEエデュケーション

科目の基礎情報②

授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分を身につける。				
到達目標	・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体现することができる。				
評価基準	テスト：20% 授業態度：40% 提出物：40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	朝日出 孝太			実務経験	
実務内容					

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	「未来デザインプログラム」とは何か学ぶ 夢のスケッチブックの使い方を学ぶ
2	SANKOワークコンピテンス	SANKOワークコンピテンスの理解を深める
3	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
4	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
5	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
6	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ
7	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
8	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
9	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ

10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第2領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的成功）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ
16	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
17	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
18	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
19	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
20	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを学ぶ
21	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
22	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
23	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
24	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する
25	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
26	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
27	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
28	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
29	未来デザインプログラムの振り返り	7つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
30	2年生に向けて	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	総合福祉Ⅰ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	総合福祉Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	介護保険事務講座テキスト			出版社	日本医療事務協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	介護実践に必要な知識という観点から、介護保険制度について基礎的な知識を身につける。 介護保険制度の給付管理業務を理解する。				
到達目標	①介護保険の仕組み・介護サービスの内容を説明することができる。 ②介護報酬及び保険給付業務が理解できる。 ③介護給付費明細書を作成することができる。				
評価基準	筆記試験50％ 提出物20％ 小テスト20％ 授業態度：10％、				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士 福祉住環境コーディネーター2級 介護報酬請求事務技能検定試験				
関連科目	社会の理解 総合福祉Ⅱ 介護の基本Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	矢田 優子			実務経験	○
実務内容	急性期病院、クリニック、労災保険情報センターにて医療事務に10年間従事している				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	介護保険制度の概要①	介護保険制度のしくみ
2	介護保険制度の概要②	給付管理業務の実際
3	介護報酬及び介護保険給付費①	介護報酬の基礎知識
4	介護報酬及び介護保険給付費②	居宅サービス
5	介護報酬及び介護保険給付費③	居宅介護支援
6	介護報酬及び介護保険給付費④	地域密着型サービス
7	介護報酬及び介護保険給付費⑤	介護予防・日常生活支援総合事業
8	介護保険制度の概要③	入所施設に関する介護保険制度のしくみ

9	介護報酬及び介護保険給付費⑥	施設サービス
10	介護報酬及び介護保険給付費⑦	介護福祉施設サービス費
11	介護報酬及び介護保険給付費⑧	介護保健施設サービス費
12	介護報酬及び介護保険給付費⑨	介護療養施設サービス費
13	介護報酬及び介護保険給付費⑩	短期入所サービス
14	まとめ	振り返り
15	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	演習	科目名	スポーツ福祉Ⅰ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	スポーツ福祉Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	中高老年期運動指導士資格認定教本			出版社	日本スポーツクラブ協会

科目の基礎情報2

授業のねらい	中高老年期に向かう人々の健康増進を目的とした運動指導の理論と実技の習得を目指す。				
到達目標	①中高老年期の運動指導の理念及び概念を理解できる。 ②中高老年期の運藤の方法論における指導の全体像がわかる。 ③中高老年期の特性や個性に合わせた運動プログラムの構築ができる。				
評価基準	実技試験30% 筆記試験30% レポート30% 授業態度10%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士 中高老年期運動指導士 介護予防運動スペシャリスト				
関連科目	スポーツ福祉Ⅱ こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ 発達と老化の理解				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	背古 鉄平			実務経験	○
実務内容	運動指導などの資格取得後、介護予防デイサービスに8年間勤務し介護福祉士の資格取得後、住宅型有料老人ホームにて3年勤務している				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	福祉スポーツ概論①	生涯健康スポーツに関する知識 運動実践からの中高老年期の理解、健康体力づくりのための運動実践理解
2	福祉スポーツ概論②	中高老年期の身体特性に関する知識 生理学的・医学的視点からの中高老年期の身体特性理解
3	福祉スポーツ概論③	運動欲求と健康体力づくり、楽しさ・喜び体験の関係 運動欲求の創出からの運動の構造とその形成の工夫
4	福祉スポーツ概論④	健康の維持と食習慣に関する知識 生活習慣病と栄養・食生活の関係

5	トレーニングの理論と実際①	筋力及び持久力からの中高老年期の特性理解
6	トレーニングの理論と実際②	筋力及び持久力の維持・向上のための運動内容構成と実践方法
7	トレーニングの理論と実際③	調整力及び柔軟性からの中高老年期の特性理解
8	トレーニングの理論と実際④	調整力及び柔軟性の維持・向上のための運動内容と実践方法
9	運動指導中の応急対応①	運動外傷、障害予防に関する知識と実践 運動外傷、運動障害等の理解と手当
10	運動指導中の応急対応②	運動外傷、障害予防に関する知識と実践 救急救護の基本的考え方と実際
11	中高老年人への運動指導の実際①	事前準備と計画
12	中高老年人への運動指導の実際②	メディカルチェックの実施と評価法
13	中高老年人への運動指導の実際③	体力テストの実施と評価法
14	中高老年人への運動指導の実際④	運動指導の実施と評価
15	まとめ	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	福祉カウンセリングⅠ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	福祉カウンセリングⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	ストレス・マネジメント入門			出版社	金剛出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。				
到達目標	①ストレッサーとストレス反応について理解できる。 ②自分のストレス特性を知ることができる。 ③ストレスコーピングを習得することができる。				
評価基準	テスト：50％ 提出物：30％ 授業態度：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士 心理カウンセラー初級コース修了				
関連科目	人間関係とコミュニケーションⅠ 福祉カウンセリングⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	岡本 大輔			実務経験	○
実務内容	児童発達支援、放課後等デイサービスに心理士として2年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ストレスと精神身体的健康①	ストレスとは何か
2	ストレスと精神身体的健康②	精神的ストレス反応
3	ストレスと精神身体的健康③	身体的ストレス反応と健康
4	ストレスと精神身体的健康④	ストレスとコーピング

5	ストレスと精神身体的健康⑤	行動パターンとコーピング
6	ストレスと精神身体的健康⑥	たくましい人格、自己表現、自己効力感、レジリエンス
7	ストレスと精神身体的健康⑦	社会的興味と外向性
8	ストレスと精神身体的健康⑧	楽観主義と完璧主義
9	心豊かに生きるためのストレスマネジメント①	イメージリラックス・トレーニング
10	心豊かに生きるためのストレスマネジメント②	問題解決法とタイムマネジメント
11	心豊かに生きるためのストレスマネジメント③	考え方を変える認知行動療法
12	心豊かに生きるためのストレスマネジメント④	自己主張とリハーサル
13	心豊かに生きるためのストレスマネジメント⑤	セルフ・マネジメント法
14	心豊かに生きるためのストレスマネジメント⑥	困難な状況を乗り越えるための弁証法的行動療法
15	まとめ	振り返り

シラバス

科目の基礎情報1

授業形態	講義	科目名	国際理解Ⅰ		
必修選択	選択必修	(学則表記)	国際理解Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	【使用教材】 ①まるごと日本のことばと文化 初級1 A2 かつどう ②外国人のためのやさしく学べる介護のことば ③日本語学習者のための読解厳選テーマ初中級 【教材】 折り紙・かるた・落語テープ・将棋・けん玉など			出版社	①三修社 ②中央法規出版 ③凡人社

科目の基礎情報2

授業のねらい	介護の基本、応用、文化活動への参加から対象者を理解し、国家資格介護福祉士について理解することで日本の介護を国際的な視点から国内外に向けて発信できるようになる。 日本のきめ細かな介護福祉に適應できる語彙、立ち居振る舞い、知識を学ぶ。 行事を通して日本の四季、文化に触れ、国際社会の中での日本の現状について知識を深める。		
到達目標	日本で暮らす人たちと日常的に使われる基本的な日本語を聞き取り、わかる。 求められる社会人としての立ち居振る舞い、国際的に必要とされるコミュニケーション力の基本が身につく。 日本の豊かな季節の文化・行事に触れ、体験できる。		
評価基準	テスト:30％　小テスト:30％　提出期限の厳守・参加:30％　提出物等の完成・内容:10％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上あるもの ・成績評価が3以上のもの		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	国際理解Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	安村　晃代	実務経験	○
実務内容	デイサービスやリハビリデイサービス、訪問介護に携わり介護福祉士の資格を取得 また、日本語学校にて日本語教師として３年勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要と達成課題の説明

2	国際社会における日本①	・ 諸外国の福祉施策 ・ 国際社会から見た日本の現状
3	国際社会における日本②	
4	日本の暮らしと福祉①	日本の生活及び文化の理解 ・ 日本の言語 ・ 日本の地域社会 ・ 日本社会で求められる社会人像 ・ 介護の対象者の生活してきた時代背景
5	日本の暮らしと福祉②	
6	日本の暮らしと福祉③	
7	日本の暮らしと福祉④	
8	日本の暮らしと福祉⑤	
9	日本の暮らしと福祉⑥	
10	日本特有の文化－季節の行事①	・ 季節の行事の体験 ・ 日本の歴史、郷土の風習、習慣
11	日本特有の文化－季節の行事②	
12	日本特有の文化－季節の行事③	
13	日本特有の文化－季節の行事④	
14	まとめ	振り返り
15	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	介護の基本Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	介護の基本Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	4	120
使用教材	最新介護福祉士養成講座 2 社会の理解 最新介護福祉士養成講座 3 介護の基本Ⅰ 最新介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本理念を理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を習得する。				
到達目標	①介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、介護福祉専門職としての態度が理解できる ②介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての在り方が理解できる。 ③個々の状態に応じた自立を支援するための様々な環境整備や介護予防の意義や方法について説明できる。 ④様々な介護場面に必要な高齢者福祉、障害者福祉の制度について説明できる。				
評価基準	テスト：50% 小テスト・レポート：30% 授業態度：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	社会の理解 介護の基本Ⅱ 認知症の理解 障害の理解				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	背古 鉄平			実務経験	○
実務内容	運動指導などの資格取得後、介護予防デイサービスに8年間勤務し介護福祉士の資格取得後、住宅型有料老人ホームにて3年勤務している				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業概要と進め方、成績評価の方法など
2	介護福祉の基本理念①	介護福祉の歴史
3	介護福祉の基本理念②	生活の基本機能、ライフサイクルの変化
4	介護福祉の基本理念③	家族の機能と役割
5	介護福祉の基本理念④	介護の概念の変遷
6	介護福祉の基本理念⑤	介護福祉の基本理念

7	介護福祉士の機能と役割①	社会福祉士及び介護福祉士法 介護福祉士の義務規定
8	介護福祉士の機能と役割②	介護福祉士の活動の場と役割 介護福祉士を支える団体
9	介護福祉士の倫理	介護福祉士の倫理
10	自立に向けた介護①	介護福祉における自立支援の意義
11	自立に向けた介護②	利用者理解の視点（ICFの考え方）
12	自立に向けた介護③	利用者理解の視点（ストレングス、エンパワメント）
13	自立に向けた介護④	自立支援とリハビリテーション
14	自立に向けた介護⑤	自立支援と介護予防
15	介護を必要とする人の理解①	生活の概念
16	介護を必要とする人の理解②	介護福祉を必要とする人たちの暮らし（高齢者）
17	介護を必要とする人の理解③	介護福祉を必要とする人たちの暮らし（障害者）
18	介護を必要とする人の理解④	生活ニーズの理解
19	介護を必要とする人の理解⑤	生活のしづらさの理解と支援
20	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ①	介護保険制度創設の背景と目的
21	介護保険制度のしくみ①	保険者と被保険者
22	介護保険制度のしくみ②	介護保険料、介護保険制度の財源
23	介護保険制度のしくみ③	要介護認定、要支援認定、保険給付の種類
24	介護保険制度のしくみ④	サービスの利用手続き
25	介護保険制度のしくみ⑤	ケアプラン作成、介護支援専門員の役割
26	介護保険制度のしくみ⑥	介護保険サービスの種類と内容

27	介護保険制度のしくみ⑦	介護保険サービスの種類と内容
28	介護保険制度のしくみ⑧	介護保険サービスの種類と内容
29	介護保険制度のしくみ⑨	介護保険サービスの種類と内容
30	前期のまとめ	前期の振り返り
31	介護保険制度のしくみ⑩	地域支援事業
32	介護保険制度のしくみ⑪	地域支援事業
33	介護保険制度のしくみ⑫	地域包括ケアシステム
34	介護保険制度のしくみ⑬	地域包括支援センター
35	介護保険制度のしくみ⑭	介護保険制度における組織、団体の役割
36	介護保険制度のしくみ⑮	介護保険制度における組織、団体の役割
37	介護保険制度のしくみ⑯	介護保険制度のまとめ
38	介護を必要とする人の生活を支えるしくみ②	障害者保健福祉の動向
39	障害者総合支援制度①	障害者総合支援制度創設の背景及び目的
40	障害者総合支援制度②	市町村・都道府県・国の役割
41	障害者総合支援制度③	障害者総合支援法の給付・事業
42	障害者総合支援制度④	財源と利用者負担
43	障害者総合支援制度⑤	利用手続き
44	障害者総合支援制度⑥	障害支援区分の認定
45	障害者総合支援制度⑦	福祉サービスの種類と内容
46	障害者総合支援制度⑧	福祉サービスの種類と内容
47	障害者総合支援制度⑧	福祉サービスの種類と内容
48	障害者総合支援制度⑨	福祉サービスの種類と内容
49	障害者総合支援制度⑩	協議会と機関相談支援センター、相談支援事業と相談支援専門員
50	障害者総合支援制度⑪	障害児を支える障害者総合支援制度

51	障害者総合支援制度⑫	障害者総合支援制度のまとめ
52	生活を支えるインフォーマルサービス	インフォーマルサービスの種類と介護福祉士に求められる支援の視点
53	地域連携①	地域連携の意義と目的
54	地域連携②	地域連携にかかわる機関の理解
55	地域連携③	利用者を取り巻く地域連携の実際
56	家族への支援①	家族介護者に対する理解
57	家族への支援②	介護する家族の状況
58	家族への支援③	家族介護者への支援
59	後期のまとめ	後期の振り返り
60	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	コミュニケーション技術Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	コミュニケーション技術Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	最新介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする		
到達目標	①本人、家族等との関係性の構築やチームケアを実践するための、コミュニケーションの基礎的な知識・技術を習得する ②介護を実践する対象・場によらず様々な場面に必要とされる介護の基礎的な知識・技術を習得する		
評価基準	テスト：50％ 課題提出：30％ 授業態度：20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	コミュニケーション技術Ⅱ 人間関係とコミュニケーションⅠ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	梶原 百合香	実務経験	○
実務内容	看護師として総合病院、個人病院に勤務し、介護老人保健施設に勤務し介護福祉士養成校で専任教員として2年勤務 現在は地域の手話通訳者として活動中		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	介護におけるコミュニケーションの基本①	介護におけるコミュニケーションとは 介護におけるコミュニケーションの対象
2	介護におけるコミュニケーションの基本②	援助関係とコミュニケーション
3	コミュニケーションの基本技術①	コミュニケーション態度に関する基本技術①
4	コミュニケーションの基本技術②	コミュニケーション態度に関する基本技術②
5	コミュニケーションの基本技術③	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本①
6	コミュニケーションの基本技術④	言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本②
7	コミュニケーションの基本技術⑤	目的別のコミュニケーション技術 集団におけるコミュニケーション技術

8	対象者の特性に応じたコミュニケーション①	コミュニケーション障害への対応の基本
9	対象者の特性に応じたコミュニケーション②	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援①（視覚障害のある人）
10	対象者の特性に応じたコミュニケーション③	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援②（聴覚・言語障害のある人）
11	対象者の特性に応じたコミュニケーション④	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援③（認知・知的障害のある人）
12	対象者の特性に応じたコミュニケーション⑤	さまざまなコミュニケーション障害のある人への支援④（精神障害のある人）
13	家族とのコミュニケーション①	家族との関係づくり 家族への助言・指導・調整
14	家族とのコミュニケーション②	家族関係と介護ストレスへの対応
15	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	生活支援技術Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	生活支援技術Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	6	180
使用教材	最新介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 最新介護福祉士養成講座7 生活支援技術Ⅱ 最新介護福祉士養成講座8 生活支援技術Ⅲ			出版社	中央法規

科目の基礎情報②

授業のねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。		
到達目標	①「生活」とは何かを理解し、「生活」を支えるための必要な支援とは何かを理解することができる。 ②生活を支援するためには、様々な視点・アプローチがあることを学び、多様性のある利用者の生活を支援するために欠かせない柔軟な思考を育むことができる。		
評価基準	筆記テスト：60％　実技テスト：30％　提出物：10％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	生活支援技術Ⅰ、生活支援技術Ⅱ、生活支援技術Ⅲ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	山口　美鈴	実務経験	○
実務内容	介護福祉士として特別養護老人ホームにて5年間勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	自立に向けた移動の介護①	安全で的確な移動・移乗介助の技法／ボディメカニクス、安楽な体位の保持、体位交換
3	自立に向けた移動の介護②	安全で的確な移動・移乗介助の技法／ボディメカニクス、安楽な体位の保持、体位交換
4	自立に向けた介護実践①	ベッドメイキング
5	自立に向けた介護実践②	ベッドメイキング
6	自立に向けた移動の介護③	移動の意義と目的・安全で気兼ねなく動けることを支える介護の工夫
7	自立に向けた移動の介護④	安全で的確な移動・移乗介助の技法／ベッドから車いすへの移乗
8	自立に向けた移動の介護⑤	安全で的確な移動・移乗介助の技法／ベッドから車いすへの移乗

9	自立に向けた移動の介護⑥	立ち上がりのメカニズムと想定される形態別介護技術
10	自立に向けた移動の介護⑦	安全で的確な移動・移乗介助の技法／歩行介助
11	自立に向けた移動の介護⑧	安全で的確な移動・移乗介助の技法／歩行介助
12	自立に向けた移動の介護⑨	安全で的確な移動・移乗介助の技法／車椅子介助
13	自立に向けた移動の介護⑩	安全で的確な移動・移乗介助の技法／車椅子介助
14	自立に向けた移動の介護⑪	安全で的確な移動・移乗介助の技法／スライディングボード、リフト
15	自立に向けた移動の介護⑫	移動に関する利用者のアセスメント／他の職種と協働
16	自立に向けた食事の介護①	食事の意義と目的・「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫
17	自立に向けた食事の介護②	安全で的確な食事介助の技法／食事の姿勢、基本的な食事介助の方法と留意点
18	自立に向けた食事の介護③	安全で的確な食事介助の技法／配膳下膳・環境設定
19	自立に向けた食事の介護④	安全で的確な食事介助の技法／嚥下困難・姿勢保持困難な方への食事介助
20	自立に向けた食事の介護⑤	安全で的確な食事介助の技法／嚥下困難・姿勢保持困難な方への食事介助
21	自立に向けた食事の介護⑥	摂食のメカニズムと想定される形態別介護技術
22	自立に向けた食事の介護⑦	安全で的確な食事介助の技法／状態に応じた調理の工夫
23	自立に向けた食事の介護⑧	安全で的確な食事介助の技法／状態に応じた調理の工夫
24	自立に向けた食事の介護⑨	食事に関する利用者のアセスメント／他の職種と協働
25	自立に向けた身じたくの介護①	身じたくの意義と目的・生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫
26	自立に向けた身じたくの介護②	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法／整容
24	自立に向けた身じたくの介護③	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法／整容
28	自立に向けた身じたくの介護④	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法／口腔の清潔
29	自立に向けた身じたくの介護⑤	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法／口腔の清潔
30	自立に向けた身じたくの介護⑥	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法／衣服着脱
31	自立に向けた身じたくの介護⑦	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法／衣服着脱
32	自立に向けた身じたくの介護⑧	着替えに関する身体のメカニズムと想定される形態別介護技術
33	自立に向けた身じたくの介護⑨	身じたくに関する利用者のアセスメント／他の職種の役割と協働

34	自立に向けた入浴・清潔保持の介護①	安全での確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴の外介助（誘導から着脱）
35	自立に向けた入浴・清潔保持の介護②	安全での確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴の外介助（誘導から着脱）
36	自立に向けた入浴・清潔保持の介護③	安全での確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴の外介助（浴槽出入り介助）
37	自立に向けた入浴・清潔保持の介護④	安全での確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴の外介助（浴槽出入り介助）
38	自立に向けた排泄の介護①	排泄の意義と目的・安全で気兼ねなく動けることを支える介護の工夫
39	自立に向けた排泄の介護②	安全での確な排泄の介助の技法／おむつ介助
40	自立に向けた排泄の介護③	安全での確な排泄の介助の技法／おむつ介助
41	自立に向けた排泄の介護④	安全での確な排泄の介助の技法／おむつ介助
42	まとめ①	技術の習得状況の確認
43	まとめ②	技術の習得状況の確認
44	まとめ③	知識の習得状況の確認
45	前期のまとめ	前期の振り返り
46	後期オリエンテーション	後期授業の流れ、到達目標について
47	自立に向けた食事の介護⑩	安全での確な食事介助の技法／視覚障害者への食事介助
48	自立に向けた食事の介護⑪	安全での確な食事介助の技法／視覚障害者への食事介助
49	自立に向けた食事の介護⑫	安全での確な食事介助の技法／認知症高齢者への食事介助
50	自立に向けた食事の介護⑬	安全での確な食事介助の技法／自助具の活用、脱水予防
51	自立に向けた食事の介護⑭	安全での確な食事介助の技法／自助具の活用、脱水予防
52	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑤	入浴の意義と目的・爽快感・安楽を支える介護の工夫
53	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑥	安全での確な入浴・清潔保持の介助の技法／全身清拭・陰部洗浄
54	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑦	安全での確な入浴・清潔保持の介助の技法／全身清拭・陰部洗浄
55	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑧	安全での確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴介助（個浴、シャワー浴、機械浴、洗髪）
56	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑨	安全での確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴介助（個浴、シャワー浴、機械浴、洗髪）
57	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑩	安全での確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴介助（個浴、シャワー浴、機械浴、洗髪）
58	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑪	安全での確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴介助（個浴、シャワー浴、機械浴、洗髪）

59	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑫	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴介助（個浴、シャワー浴、機械浴、洗髪）
60	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑬	安全で的確な入浴・清潔保持の介助の技法／入浴介助（個浴、シャワー浴、機械浴、洗髪）
61	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑭	内部障害やその他障害、症状など、想定される形態別介護技術
62	自立に向けた入浴・清潔保持の介護⑮	入浴・清潔保持に関する利用者のアセスメント／他の職種の役割と協働
63	自立に向けた排泄の介護⑤	排泄の意義と目的・気持ちよい排泄を支える介護の工夫
64	自立に向けた排泄の介護⑥	安全で的確な排泄の介助の技法／トイレ、ポータブルトイレ
65	自立に向けた排泄の介護⑦	安全で的確な排泄の介助の技法／トイレ、ポータブルトイレ
66	自立に向けた排泄の介護⑧	排泄に関する身体のメカニズムと想定される形態別介護技術
67	自立に向けた排泄の介護⑨	安全で的確な排泄の介助の技法／脊椎損傷の方への生活介助、自己導尿
68	自立に向けた排泄の介護⑩	安全で的確な排泄の介助の技法／ストーマ造設後の生活介助
69	自立に向けた排泄の介護⑪	安全で的確な排泄の介助の技法／尿器、差し込み便器
70	自立に向けた排泄の介護⑫	安全で的確な排泄の介助の技法／尿器、差し込み便器
71	自立に向けた排泄の介護⑬	排泄に関する利用者のアセスメント／他の職種の役割と協働
72	自立に向けた休息・睡眠の介護①	睡眠の意義と目的・安眠のための介護の工夫
73	自立に向けた休息・睡眠の介護②	安眠を促す介助の技法／睡眠を促すための環境づくり、生活動作・生活リズム
74	自立に向けた休息・睡眠の介護③	安眠を促す介助の技法／安眠を促す介助
75	自立に向けた休息・睡眠の介護④	睡眠に関する身体のメカニズムと想定される形態別介護技術
76	自立に向けた休息・睡眠の介護⑤	安眠を促す介助の技法／認知症の方への睡眠援助
77	自立に向けた休息・睡眠の介護⑥	安眠を促す介助の技法／睡眠時無呼吸症候群、内部障害の方への睡眠援助
78	自立に向けた休息・睡眠の介護⑦	排泄に関する利用者のアセスメント／他の職種の役割と協働
79	自立に向けた休息・睡眠の介護⑧	夜間巡回時の対応と眠りスキンの活用
80	自立に向けた休息・睡眠の介護⑨	夜間巡回時の対応と眠りスキンの活用
81	自立に向けた休息・睡眠の介護⑩	夜間巡回時の対応と眠りスキンの活用
82	自立に向けた休息・睡眠の介護⑪	夜間巡回時の対応と眠りスキンの活用
83	自立に向けた休息・睡眠の介護⑫	夜間巡回時の対応と眠りスキンの活用

84	自立に向けた介護実践③	安全での確な介護実践
85	自立に向けた介護実践④	安全での確な介護実践
86	自立に向けた介護実践⑤	安全での確な介護実践
87	まとめ①	技術の習得状況の確認
88	まとめ②	技術の習得状況の確認
89	まとめ③	知識の習得状況の確認
90	後期のまとめ	後期の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	介護過程Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	介護過程Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	3	90
使用教材	最新介護福祉士養成講座9 介護過程			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する		
到達目標	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を地域で継続するための介護計画と支援方法を介護過程を展開して立案できる		
評価基準	テスト：50％　課題提出：30％　授業態度：20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	介護総合演習Ⅰ・介護総合演習Ⅱ・介護実習ⅠA・介護実習ⅠB・介護実習ⅡA・介護実習ⅡB・介護実習ⅡC		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	中嶋　和泉	実務経験	○
実務内容	特別養護老人ホーム・デイサービス・有料老人ホームにて介護職として約10年間勤務、介護福祉士		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	介護過程とは①	介護過程の意義・目的を理解する 自分を通して生活を理解する
2	介護過程とは②	生活支援における介護過程の必要性 他者の生活を理解する
3	介護過程とは③	介護過程の全体像を理解する
4	介護過程とは④	ICFの理解
5	介護過程とは⑤	生活支援における介護過程の必要性 事例を通じてICFの内容を理解する
6	介護過程の理解①	アセスメントの視点と思考方法を理解する
7	介護過程の理解②	介護過程の展開 アセスメント・介護計画の立案

8	介護過程の理解③	第情報収集の方法を理解する
9	介護過程の理解④	I C F を活用してアセスメントする
10	介護過程の理解⑤	解釈・関連づけ・統合化 アセスメントの実際
11	介護過程の理解⑥	解釈・関連づけ・統合化 アセスメントの実際
12	介護過程の理解⑦	介護実習で収集した情報を整理し課題の明確化を行う
13	介護過程の理解⑧	介護計画の立案 介護計画とは
14	介護過程の理解⑨	介護目標の設定・具体的な支援内容・支援方法について
15	前期のまとめ	前期の振り返り
16	介護過程の理解⑩	施設の援助方針と個別援助計画の関連性
17	介護過程の理解⑪	長期目標・短期目標の設定
18	介護過程の理解⑫	具体的な支援内容・支援方法を考え文章化する
19	介護過程の理解⑬	介護の実施 実施中の観察内容や記録の仕方
20	介護過程の理解⑭	評価 実施内容から評価する
21	介護過程の理解⑮	情報収集の方法と介護過程の展開を使用するツールに沿って理解する
22	介護過程の理解⑯	帰校日（情報の整理・病態生理）
23	介護過程の理解⑰	帰校日（介護過程の展開・課題の明確化・介護計画の立案）
24	介護過程の理解⑱	支援方法を具体的に文章化する
25	介護過程の理解⑲	介護の実施
26	介護過程の理解⑳	介護の実施
27	介護過程の理解㉑	実施内容を評価の視点で記録する
28	介護過程の理解㉒	ケアカンファレンスを実施する
29	介護過程の理解㉓	評価・考察
30	介護過程の理解㉔	修正・再立案

31	介護過程の実践的展開①	介護過程の実践的展開 介護過程展開の実際
32	介護過程の実践的展開②	事例を読み情報を整理する
33	介護過程の実践的展開③	介護過程を展開し支援方法を考える
34	介護過程の実践的展開④	他者の意見を聞いて支援方法を考える
35	介護過程とケアマネジメント①	介護過程とケアマネジメントの関係性
36	介護過程とケアマネジメント②	介護過程とケアマネジメントの関係性
37	介護過程とケアマネジメント③	チームアプローチにおける介護福祉士の役割
38	介護過程とケアマネジメント④	チームアプローチにおける介護福祉士の役割
39	利用者の生活と介護過程の展開①	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開
40	利用者の生活と介護過程の展開②	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開
41	利用者の生活と介護過程の展開③	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開
42	利用者の生活と介護過程の展開④	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開
43	利用者の生活と介護過程の展開⑤	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開
44	利用者の生活と介護過程の展開⑥	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開
45	総まとめ	総まとめと振り返りを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	介護総合演習Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	介護総合演習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	2	60
使用教材	最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う。		
到達目標	①利用者理解に必要な基本的コミュニケーション方法やマナーがわかる。 ②居宅・通所・入所等の介護施設の概要と、その中での介護福祉士の役割を理解する。 ③実習のイメージを膨らませ、自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる。 ④実習目標に合わせて、4領域で得た知識や技術の整理、復習ができる。 ⑤実習における記録の意義と、その方法が理解できる。		
評価基準	テスト：50％　課題提出：30％　授業態度：20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	介護過程Ⅰ・Ⅱ　介護実習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅡC		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	中嶋　和泉	実務経験	○
実務内容	特別養護老人ホーム・デイサービス・有料老人ホームにて介護職として約10年間勤務、介護福祉士		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	介護実習の意義と目的	介護総合演習の位置づけ 介護総合演習の目的・介護実習の意義と目的
2	実習要項の説明	介護実習の意義と目的 介護実習の種類
3	実習までの計画・事前学習	実習前の学びと、実習後のいかし方 実習先の理解
4	個人票実習目標作成	個人票、実習目標の作成

5	実習での具体的行動	実習中の態度、日々の行動目標、観察と考察 報告・連絡・相談、事故や不測の事態への対応
6	学内実習振り返り	介護実習後の学習内容と方法
7	見学実習振り返り	介護実習後の学習内容と方法
8	お礼状について	介護実習後の学習内容と方法
9	カンファレンスについて	カンファレンスの意義、目的 多職種協働の意味と重要性の意識化
10	直前オリエンテーション	実習の目的・概要、おもな実習内容、実習先の理解
11	実習ⅠA振り返り	介護実習後の学習内容と方法
12	施設サービス理解度確認	施設の特徴、地域との関り、介護福祉士の役割、多職種協働について理解度の確認
13	直前オリエンテーション	実習の目的・概要、おもな実習内容、実習先の理解
14	実習ⅡA振り返り	介護実習後の学習内容と方法
15	前期のまとめ	前期の振り返り
16	実習ⅡB実習要項説明	実習の目的・概要、おもな実習内容
17	施設サービス理解度確認	施設の特徴、地域との関り、介護福祉士の役割、多職種協働について理解度の確認

18	レクリエーションの計画について	生活の理解、レクリエーションの意義、目的
19	ケースカンファレンスについて	カンファレンスの意義、目的 多職種協働の意味と重要性の意識化
20	直前オリエンテーション	実習の目的・概要、おもな実習内容、実習先の理解
21	中間指導日	個別指導（情報の整理・活用、生活上の課題・計画立案）
22	実習Ⅱ B 振り返り	介護実習後の学習内容と方法
23	2年生学びの会への参加	介護実習への理解を深める
24	2年生学びの会への参加	介護実習への理解を深める
25	実習報告会準備	自らの実践の振り返りとコミュニケーション能力の向上を図るための準備
26	実習報告会準備	自らの実践の振り返りとコミュニケーション能力の向上を図るための準備
27	実習報告会	自らの実践の振り返りとコミュニケーション能力の向上を図る
28	実習報告会	自らの実践の振り返りとコミュニケーション能力の向上を図る
29	実習Ⅱ C 要項説明	実習の目的・概要、おもな実習内容
30	総まとめ	振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	介護実習ⅠA		
必修選択	必修	(学則表記)	介護実習ⅠA		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	1	30
使用教材	最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う。		
到達目標	介護実習ⅠA ①事前学習、施設への挨拶、連絡・報告・相談など、実習における基本的態度を身に付けることができる。 ②基本的なコミュニケーション技術を活用し、利用者と関わるができる。 ③通所サービスの目的、地域における役割、法的位置づけがわかり、その中で介護福祉士の役割について考えることができる。		
評価基準	達成目標ごとに評価項目を決め、5点法で評価（実習指導者50％、教員50％）		
認定条件	出席が総時間数の5分の4以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	中嶋 和泉	実務経験	○
実務内容	特別養護老人ホーム・デイサービス・有料老人ホームにて介護職として約10年間勤務、介護福祉士		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習ⅠA	事前：施設の法的位置づけ、概要について事前学習をしておく。 実習中：複数の利用者とのコミュニケーション技術を実践し、関わる。 ：援助の実際を観察したり、職員と一緒に実践することを通し、通所サービスの実際を知る。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	介護実習ⅡA		
必修選択	必修	(学則表記)	介護実習ⅡA		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	2	70
使用教材	最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養		
到達目標	①生活歴、おかれた環境（法制度、人間関係含む）、生活リズム、医学的観点など、様々な視点から情報を収集し、尊厳ある利用者の個性が理解できる。 ②利用者の社会参加を大きな目標とし、尊厳の保持の観点から、安全・安心・自立支援に基づいて収集した情報を分析し、生活上の課題を明確にし、介護計画（個別援助計画）を立案することができる。 ③基本技術を応用し、対象に応じた日常生活援助が提供できる。		
評価基準	達成目標ごとに評価項目を決め、5点法で評価（実習指導者50％、教員50％）		
認定条件	出席が総時間数の5分の4以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目	なし		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	中嶋 和泉	実務経験	○
実務内容	特別養護老人ホーム・デイサービス・有料老人ホームにて介護職として約10年間勤務、介護福祉士		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習ⅡA	事前：施設の概要について説明を受け、施設の目的、地域における役割を知る。 実習中：援助活動を通し、利用者とコミュニケーションを行い、人間関係を構築する。 ：指導者、記録物、家族、観察を通し、様々な視点から受け持ち利用者の情報収集を行い、収集した情報から受け持ち利用者の全体像を捉える。 ：指導を受けながら、受け持ち利用者の生活目標と生活上の課題を明らかにする。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	実習	科目名	介護実習ⅡB		
必修選択	必修	(学則表記)	介護実習ⅡB		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	4	120
使用教材	最新介護福祉士養成講座10 介護総合演習・介護実習		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養		
到達目標	①生活歴、おかれた環境（法制度、人間関係含む）、生活リズム、医学的観点など、様々な視点から情報を収集し、尊厳ある利用者の個性が理解できる。 ②利用者の社会参加を大きな目標とし、尊厳の保持の観点から、安全・安心・自立支援に基づいて収集した情報を分析し、生活上の課題を明確にし、介護計画（個別援助計画）を立案することができる。 ③基本技術を応用し、対象に応じた日常生活援助が提供できる。		
評価基準	達成目標ごとに評価項目を決め、5点法で評価（実習指導者50％、教員50％）		
認定条件	出席が総時間数の5分の4以上ある者 成績評価が3以上の者		
関連資格	介護福祉士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	中嶋 和泉	実務経験	○
実務内容	特別養護老人ホーム・デイサービス・有料老人ホームにて介護職として約10年間勤務、介護福祉士		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	実習ⅡB	事前：施設の概要について説明を受け、施設の目的、地域における役割を知る。 実習中：援助活動を通し、利用者とコミュニケーションを行い、人間関係を構築する。 ：指導者、記録物、家族、観察を通し、様々な視点から受け持ち利用者の情報収集を行い、収集した情報から受け持ち利用者の全体像を捉える。 ：指導を受けながら、受け持ち利用者の生活目標と生活上の課題を明らかにする。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	こころとからだのしくみⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	こころとからだのしくみⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	2	60
使用教材	最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。				
到達目標	①こころのしくみの成り立ちを理解し、介護場面での実践につなげることができる。 ②からだのしくみの成り立ちを理解し、介護場面での実践につなげることができる。				
評価基準	筆記試験（小テスト及びレポート）:90％ 授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 介護過程Ⅰ・Ⅱ こころとからだのしくみⅡ 認知症の理解 障害の理解 発達と老化の理解 医療的ケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐野 真希子			実務経験	○
実務内容	看護師として病棟、介護施設、訪問看護にて20年従事していた				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション からだのしくみとは	授業概要 細胞～組織～器官～器官系～からだへ 身体各部の名称
2	からだのしくみの理解①	骨格系 骨～骨格 骨の生理的作用
3	からだのしくみの理解②	筋系 代表的な骨格筋 筋肉の役割
4	からだのしくみの理解③	関節系 人の動作と関節 関節可動域と拘縮
5	からだのしくみの理解④	関節系 関節の運動と筋肉のかかわり
6	からだのしくみの理解⑤	消化器系 消化に関連する臓器（消化吸収のメカニズム）
7	からだのしくみの理解⑥	消化器系 摂食中枢と満腹中枢

8	からだのしくみの理解⑦	消化器系 嚥下運動・嚥下反射
9	からだのしくみの理解⑧	循環器系 心臓と血管系
10	からだのしくみの理解⑨	呼吸器系 呼吸器の名称と各器官のはたらき
11	からだのしくみの理解⑩	呼吸器系 呼吸運動とは（大気圧と胸腔内圧、陰圧呼吸と陽圧呼吸、肺活量等）
12	からだのしくみの理解⑪	生命の維持と恒常性 バイタルサインとは
13	からだのしくみの理解⑫	バイタルサインの観察について
14	からだのしくみの理解⑬	肝臓の構造と働き
15	からだのしくみの理解⑭	泌尿器系 泌尿器の名称と各器官のはたらき 尿の生成のしくみ
16	からだのしくみの理解⑮	感覚器 視覚器 平衡聴覚器 嗅覚器
17	からだのしくみの理解⑯	感覚器 皮膚 爪 毛
18	からだのしくみの理解⑰	神経系 神経系の分類 中枢神経（脳について）
19	からだのしくみの理解⑱	神経系 中枢神経（脊髄について）
20	からだのしくみの理解⑲	神経系 末梢神経（体性神経について）
21	からだのしくみの理解⑳	神経系 末梢神経（自律神経について）
22	からだのしくみの理解㉑	内分泌系 内分泌系に含まれる器官と分泌されるホルモンの役割
23	からだのしくみの理解㉒	
24	からだのしくみの理解㉓	内分泌系 ホルモンの調整のしくみ
25	からだのしくみの理解㉔	血液・体液・リンパ 血液の成分とそのはたらき
26	からだのしくみの理解㉕	血液・体液・リンパ リンパ循環
27	からだのしくみの理解㉖	介護福祉職に必要な薬の知識 薬の吸収とその効果及び注意点 高齢者と薬
28	こころのしくみの理解①	人間の欲求とは 基本的欲求 社会的欲求 自己実現とは
29	こころのしくみの理解②	こころのしくみの基礎 こころと脳のつながり 認知・学習・記憶・思考とは
30	こころのしくみの理解③	こころのしくみの基礎 意欲・動悸づけのしくみ 適応のしくみ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	こころとからだのしくみⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	こころとからだのしくみⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	2	60
使用教材	最新・介護福祉士養成講座11 こころとからだのしくみ		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②

授業のねらい	介護サービスを提供する際に必要な観察力、判断力の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解する。				
到達目標	①日常生活場面におけるこころとからだのしくみについて説明することができる。 ②生活支援技術の理解を深め、根拠ある日常生活支援技術が実践できる。 ③介護過程を展開するための情報収集、アセスメントに関連付けることができる。				
評価基準	筆記試験:50% 小テスト及びレポート:40% 授業態度:10%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	生活支援技術Ⅰ・Ⅱ 介護過程Ⅰ・Ⅱ こころとからだのしくみⅠ 認知症の理解 障害の理解 発達と老化の理解 医療的ケアⅠ・Ⅱ・Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	佐野 真希子			実務経験	○
実務内容	看護師として病棟、介護施設、訪問看護にて20年従事していた				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	移動に関連した こころとからだのしくみ①	生活における移動とは
2	移動に関連した こころとからだのしくみ②	安全・安楽な移動、姿勢、姿勢保持のしくみについて
3	移動に関連した こころとからだのしくみ③	車椅子を動かすためのしくみ
4	移動に関連した こころとからだのしくみ④	心身の機能低下が移動に及ぼす影響
5	移動に関連した こころとからだのしくみ⑤	変化の気づきと対応
6	食事に関連した こころとからだのしくみ①	1日に必要な栄養素と水分
7	食事に関連した こころとからだのしくみ②	食物を食べるというしくみ

8	食事に関連した ところとからだのしくみ③	心身の機能低下が食事に及ぼす影響
9	食事に関連した ところとからだのしくみ④	食事に関する変化の気づきと対応
10	排泄に関連した ところとからだのしくみ①	排泄の生理的・心理的意味 尿の生成・便の生成
11	排泄に関連した ところとからだのしくみ②	排尿のしくみ・排便のしくみ
12	排泄に関連した ところとからだのしくみ③	心身の機能低下が排尿に及ぼす影響
13	排泄に関連した ところとからだのしくみ④	心身の機能低下が排便に及ぼす影響
14	排泄に関連した ところとからだのしくみ⑤	排泄に関する変化の気づきと対応
15	身じたくに関連した ところとからだのしくみ①	身じたくの効果、身じたくに関連したところのしくみ 顔面の構造と機能
16	身じたくに関連した ところとからだのしくみ②	口腔・歯・舌の構造と機能、口臭のしくみ
17	身じたくに関連した ところとからだのしくみ③	心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響 変化の気づきと対応
18	入浴・清潔保持に関連した ところとからだのしくみ①	清潔保持の生理的・心理的意味 入浴の身体への作用
19	入浴・清潔保持に関連した ところとからだのしくみ②	皮膚の汚れのしくみ 陰部の清潔
20	入浴・清潔保持に関連した ところとからだのしくみ③	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
21	入浴・清潔保持に関連した ところとからだのしくみ④	心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
22	入浴・清潔保持に関連した ところとからだのしくみ⑤	入浴・清潔保持に関する変化の気づきと対応
23	休息・睡眠に関連した ところとからだのしくみ①	睡眠の生理的・心理的意味 睡眠のしくみ
24	休息・睡眠に関連した ところとからだのしくみ②	心身の機能低下が休息・睡眠に及ぼす影響
25	休息・睡眠に関連した ところとからだのしくみ③	睡眠に関する変化に気づくためのポイント
26	人生の最終段階のケアに関連したところ とからだのしくみ①	死の捉え方
27	人生の最終段階のケアに関連したところ とからだのしくみ②	終末期とは 「死」に対するところの理解
28	人生の最終段階のケアに関連したところ とからだのしくみ③	終末期から危篤状態、死後のからだの理解
29	人生の最終段階のケアに関連したところ とからだのしくみ④	終末期における医療職との連携
30	総まとめ	知識の確認 及び振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	認知症の理解		
必修選択	必修	(学則表記)	認知症の理解		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	2	60
使用教材	最新・介護福祉士養成講座13 認知症の理解			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。				
到達目標	①認知症を取り巻く社会環境について説明できる。 ②認知症の原因となる疾病及び認知症の種類や特徴について説明できる。 ③段階に応じた心身の変化や心理状況を述べるができる。 ④認知症に伴う生活への影響や支援の在り方について知識を応用できる。 ⑤認知症の人を地域で支える仕組みや多職種連携・協働による支援について説明できる。 ⑥認知症の人を支える家族の課題について理解し、家族への支援について調べることができる。				
評価基準	期末テスト：70% 小テスト・レポートなど：20% 授業態度：10%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	介護の基本Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション技術Ⅰ・Ⅱ 介護過程Ⅰ・Ⅱ こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ 発達と老化の理解				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小津 順子			実務経験	○
実務内容	看護師として病棟、訪問看護、デイケアに勤務し、認知症グループホーム管理者の経験あり。老人保健施設での介護予防とレクリエーション業務を経て、地域高齢者への介護予防と生きがい支援活動を現在も継続中				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解①	認知症とは何か 定義と診断基準
2	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解②	脳のしくみ 認知症による障害（中核症状について）
3	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解③	認知症と間違えられやすい症状（うつ病・せん妄 など）
4	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア①	認知症に伴う生活への影響

5	認知症のさまざまな症状	BPSDについて
6	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解④	認知症の検査・診断と重症度 簡易スクリーニングテスト（HDS-R, MMSEなど）
7	認知症の原因となる主な病気と症状①	アルツハイマー型認知症
8	認知症の原因となる主な病気と症状②	血管性認知症
9	認知症の原因となる主な病気と症状③	レビー小体型認知症
10	認知症の原因となる主な病気と症状④	前頭側頭型認知症 / クロイツフェルト・ヤコブ病
11	認知症の原因となる主な病気と症状⑤	その他の認知症（アルコール性認知症・慢性硬膜下血腫・正常圧水頭症）
12	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑤	若年性認知症（定義・現状・生活上の課題と必要な支援）
13	認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解⑥	病院で行われる検査、治療の実際、予防について
14	まとめ①	前期の振り返り（演習による知識の確認）
15	まとめ②	前期の振り返り 知識の確認
16	認知症を取り巻く状況	第3章 認知症ケアの歴史 認知症ケアの理念 認知症の人のこれから
17	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア②	認知症ケアの実際① 本人主体のケアとは何か
18	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア③	認知症ケアの実際② 認知症の人の思い
19	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア④	認知症ケアの実際③ パーソン・センタード・ケア
20	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑤	認知症ケアの実際④ 認知症の特性を踏まえたアセスメントツール
21	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑥	認知症ケアの実際⑤ 認知症の特性を踏まえたアセスメントツール

22	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑦	認知症の人とのコミュニケーション法 / ユマニチュードとバリデーション
23	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑧	認知症の人へのさまざまな関わり
24	認知症に伴う生活への影響と認知症ケア⑨	認知症の人の人生の最終段階のケア
25	連携と協働	地域におけるサポート体制 / 認知症カフェ
26		多職種連携と協働 / 地域包括支援センターの役割/ チームアプローチ
27		認知症ケアバス/ 認知症ライフサポートモデル
28	家族への支援	認知症の人を介護する家族の身体的、心理的、社会的負担について
29		家族の介護力とレスパイト / 家族会
30	総まとめ	後期の振り返り 知識の確認

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	医療的ケアⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	医療的ケアⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	介護福祉科	1	15
使用教材	最新・介護福祉士養成講座15 医療的ケア			出版社	中央法規出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を習得する。				
到達目標	①医療的ケアとは何か、また介護福祉士が医行為の一部を業とすることになった背景を説明できる。 ②感染予防の基礎知識を習得し、清潔保持のための方法及び留意点を説明できる。				
評価基準	筆記試験：70％ レポート：20％ 授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者				
関連資格	介護福祉士				
関連科目	介護の基本Ⅱ こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ 発達と老化の理解 障害の理解 医療的ケアⅡ・Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	大迫 美香			実務経験	○
実務内容	看護師として病棟、外来にて6年勤務し、企業検診に3年携わった後、看護大学にて非常勤講師として2年勤務している				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	人間と社会①	授業オリエンテーション 個人の尊厳と自立
2	人間と社会②	医療の倫理について
3	保健医療制度とチーム医療①	保健医療制度
4	保健医療制度とチーム医療②	医療的ケアと喀痰吸引等の背景
5	保健医療制度とチーム医療③	チーム医療と介護職の連携

6	安全な療養生活①	安全に喀痰吸引や経管栄養を提供する重要性 リスクマネジメントの考え方と枠組み
7	安全な療養生活②	ヒヤリハット・アクシデント報告
8	安全な療養生活③	事故が発生した場合の具体的な対応
9	安全な療養生活④	救急蘇生法
10	安全な療養生活⑤	AEDを用いた心肺蘇生法
11	清潔保持と感染予防①	感染とは 地域集団、施設・組織としての予防策
12	清潔保持と感染予防②	介護福祉職の感染予防 療養環境の清潔、消毒法
13	清潔保持と感染予防③	消毒と滅菌
14	健康状態の把握①	身体・精神の健康
15	健康状態の把握② まとめ	健康状態を知る項目（バイタルサイン） 知識の確認及び振り返り